

第 24 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 総評 プロフェッショナル部門 - 最終審査

●審査員 A

ソナタに続き、間 1 日でのコンチェルト審査。皆さん全楽章をよく弾きこなされていました。カルテットではなくオーケストラと共演しているがごとく終始、力強くエネルギッシュな演奏、心に染み入るように歌い上げる為カルバートがやたらと多すぎる等、それぞれ個性的で、様々なショパン像が描かれており興味深く聞かせて頂きました。その中で安定したテンポで全体としても自然な表現をされ、美しいショパン像を描いている方もおり嬉しく思いました。更に研鑽を積んでワルシャワを目指して欲しいものです。

●審査員 B

オーケストラパートをしっかりと分析しましょう。オーケストラの部分はそれほど厚みがないので、少しでもピアノとずれてしまうと聴衆に聞こえてしまいます。一体感を感じられるかどうかの大部分はピアニストの力量にかかっています。オーケストラはいつも「少し遅れて音が鳴る」のです。カルテットと演奏するほうがやや複雑ではなくなりますが、いずれにしろオーケストラパートとは常に調和して弾けるように意識しましょう。また、カルテットと演奏するときは、左手をしっかりとコントロールしましょう。チェロはオーケストラのようにバスラインをしっかりと支えることができないので、補完しなければなりません。ソロの部分ではもっとルバートしてもよいですが、オーケストラと弾くときは好き勝手に弾くことはできません。コンチェルトは初期の作品ですので、軽やかな華やかさと名人芸的な（技巧的な）要素が必要です。力いっぱい音を出そうと思わないでください。常に旋律と伴奏形の良いバランスを保持しましょう。抒情的な部分は、長く声楽的なフレーズと長い息が必要です。細かい音型の部分は、モーツァルトのオペラのフィオリトゥーラのように旋律的に。他の要素については、ショパンの全作品に当てはまります。良い解釈とは、音質に注意を払うこと、そしてイタリアのベルカント唱法やテクスチュアの明瞭さに由来する、誠実で自然かつ芸術的な表現から生み出されます。

●審査員 C

最終審査で素晴らしい演奏を披露して下さった皆さん、ありがとうございました！皆さん全く異なった個性をお持ちということがよく分かりました。これからも、作曲家への敬意を忘れず、自分らしい演奏スタイルを磨いていってください。

●審査員 D

- ・全体的な印象—本日のピアニストの方々は、とてもしっかりとした個性をお持ちでした。身体の使い方や、特にソナタとコンチェルトの急速楽章におけるレガートの欠如は気になったものの、どの曲も論理、想像力、そして安定さをもって演奏されたと思います。
- ・是非、各作品の構成をより細かいところまで深く分析したり、規模の大きな作品ではテンポの関連性を追求したり、また自分自身の考えをどのように表現するかについて更に工夫を重ねてみてください。

●審査員 E

いずれも個性と意欲が感じられる演奏でしたが、室内楽ということで、ソロとは違う難しさがあったと思います。ソリストの意思を汲みたいという弦楽奏者の方々の努力と苦勞が伝わってきました。是非ピアノ以外のアンサンブル経験も積んでいって頂ければと思います。

●審査員 F

- ・皆さんよく練習して指がよくうごくのですが、その品質が悪いです。重さに乗せて芯をもってフルコンサートピアノの弦をきちんと鳴らしたいですね。上すべりせずに鍵盤を深くとらえた上で、音をあてるのではなく、音の魂を奏でるのです。ただ速くレースのように弾いても無意味なことです。
- ・バランスに気を配って下さい。左右バランスはもちろん和音のバランスも。Sop が大切だけど他は適当でいいということはありません。パートごとに異なるタッチを使うことで全体のバランスを整えていきます。遅筋をきたえてコントロールの効く指をつくりましょう。
- ・p, f, >, < などいつも同じように作るのではなく、今どのセクションにいてどのような音楽を必要とされるかよく理解してください。それによって表現まで変わってきます。どのように音楽を設計し構築するか、それが非常に大事です。
- ・左手の扱い、特に Bass とその進行&ハーモニーはショパンならではの世界です。右のメロディだけで音楽をつくらないこと。豊かな和声を感じて表現につなげていかななくてはいけません。

●審査員 G

コンチェルト C 部門でも触れましたが、そもそもソロの音質音量がショパンのコンチェルトとして場違いなケースも聞かれました。ソロパートだけでなくカルテットの動きにもっと注意して下さい。例えば両曲とも 1 楽章では展開部の室内楽とソロの掛け合い、2 楽章でソロがオブリガートで弦が主旋律の部分が多くあります。もっと主旋律を歌わせて下さい。そのためには音量音質の工夫以外にも弦に寄り添う柔軟なテンポルパートも必要です。だが若い皆さんの順応力は素晴らしくて楽章を追うごとに室内楽との会話も出来るようになり最後は完全に一体となりひとつの音楽を作り上げる姿も聞かれ、感動をもって聞くことが出来ました。やはりプロフェッショナル部門の名に恥じない優れた演奏が多く聴けたのは嬉しい限りでした。皆様の今後の活躍を楽しみにしております。

●審査員 H

参加人数は 5 人しかいませんでしたが、若年層でかなり弾ける人や才能のある人が何人も見出され、将来の楽しみを感じました。今日の出場者は、殆どが未完成の若者たちでしたが、それは、逆に今後の期待を抱かせる結果を生んだと考えてよいでしょう。今日の出場者の皆さんが今後どのように成長されていくか、とても興味深く思います。